

令和元年度第2回富山県総合教育会議 議事録

1 日時 令和2年1月31日（金） 13:30～14:35

2 場所 富山県庁4階大会議室

3 出席者 富山県知事 石井 隆一

富山県教育委員会

教育長 伍嶋 二美男

委員 山崎 弘一

委員 町野 利道

委員 村上 美也子

委員 藤重 佳代子

委員 鳥海 清司

4 事務局出席者 総合政策局長 蔵堀 祐一

教育・スポーツ政策監 荒井 克博

理事・教育次長 布野 浩久

教育次長 坪池 宏

参事・企画調整室課長 朝倉 正

参事・教育企画課長 広沢 久也

教職員課長 坂林 根則 他関係課職員等数名

5 議事

(1) 教員の働き方改革及び教員の確保に向けた取組みについて

(2) 教育の更なる充実について

6 会議の要旨

司会が開会を宣し、石井知事の挨拶後、富山県総合教育会議運営要領第3条の規定により、以後の議事については知事が進行した。

(1) 教員の働き方改革及び教員の確保に向けた取組みについて

(石井知事)

・教員の働き方改革については、昨年2月の総合教育会議において、主に部活動指導員、それからスクール・サポート・スタッフの配置効果の検証結果について議論をいただいた。委員の皆様のご意見も踏まえて、今年度はスクール・サポート・スタッフや部活動指導員の増員配置を行っている。

・今年度は教員の多忙化解消を一層推進するために、先ほども触れたが、教育委員会とやま学校多忙化解消推進委員会を立ち上げられて、具体的な取組方策等について議

論いただいている。

- ・そこで、この委員会の意見を踏まえた来年度以降の県の取組みの方向性などについて事務局から説明をお願いする。

坂林教職員課長より、資料1-1から1-4に基づき、「教員の働き方改革及び教員の確保に向けた取組みについて」説明した。

(石井知事)

- ・教員の働き方改革については今ほど事務局から説明があったが、現在、とやま学校多忙化推進委員会において、県及び市町村教育委員会が所管の公立学校教員の勤務時間の上限に関する方針等を策定するに当たっての方向性を議論いただいている。
- ・この委員会の議論を踏まえて、県立学校教員の勤務時間の上限方針を定めて、教育委員会規則として位置づけて条例化も検討されるということであるから、教育委員の皆様方には、引き続きよろしくお願ひしたいと思う。
- ・県立学校教員の時間外勤務の実態を見ると、その縮減に向けてさらなる取組みが必要ではないかと考えている。
- ・先ほど主な取組例の紹介もあったが、来年度予算について、特にご要望、ご意見があれば、この機会に伺いたいと思う。

(村上委員)

- ・昨年度から小中学校に配置していただいているスクール・サポート・スタッフ、中学と高校に配置していただいている部活動指導員について、今年度は、いずれも拡充していただいたことにまずお礼を申し上げたい。
- ・先生方は非常に多忙であり、その解消のためにはやはり外部人材の活用をさらに進めていくことが効果的であると思う。学校も多く、部活動もたくさんあるので、より多くの学校に配置できるように引き続き拡充をお願いしたいと思っている。
- ・昨今、保護者対応に非常にストレスを感じられる先生方も多いのではないかとと思う。やはり適切に早期に対応することにより円滑に保護者対応が進んでいくと思うので、資料1-3の下の方にあるスクールロイヤーの配置についてぜひご支援をお願いしたいと思っている。

(藤重委員)

- ・県立学校での電話対応について、全国的に効果があると言われている留守番電話の導入をお願いしたいと思っている。勤務時間外においても保護者や外部からの問い合わせ、苦情などがあって、一旦電話が入ってしまうと対応せざるを得ない状況となっており、長時間勤務につながってしまうおそれがある。
- ・留守番電話については、県内の市町村でも導入されている例があり、また全国の教育委員会においても導入が進んでいる。緊急時の連絡先を確保した上でということにはなるが、留守番電話の導入についてご支援をお願いできればと思っている。

(町野委員)

- ・20年ほど前からずっとこの時間外について取り組んできた経験から言うと、ホワイトカラーの人というのは、効率を上げて仕事をやる時間を減らすと、また別の仕事をつくり出して結局時間が減らない。だから、最終的には強制的に時間を削減する方法しかない。
- ・今年から県としても、教員の時間外をコンピューターのログまで細かく調査して、どれだけの時間、労働しているのかということをとっておられるのは非常にいいことだと思う。
- ・時間外勤務を減らすにしてもどれだけというのがわかっていないとできないので、この後、非常に効果を発揮して、いろんな施策を打つことによって、いわゆる慣習的なものが発生してこないと本当に減らない。単に決めるだけではだめで、全体にそういう雰囲気的な形がないと減らないと思う。
- ・ブルーカラーのほうは、例えば企業の世界ではやることは全部決まっているわけで、効率を上げていくとどんどん時間は少なくなる。その分、会社は人を減らすから忙しさは変わらない。かえって、作業研究とか時間研究とか動作研究をやることによって、あいた時間をどんどん本当の仕事に向けていくから、仕事をしている時間内ではすごく多忙感が出るのである。
- ・実際に働いている時間は働き方改革で減ってきた、休みも増えた、残業も減った。しかし、仕事している人の中での余裕みたいなものをどう考えるのか。多忙について、長時間労働を多忙と考えるのか、仕事をしている中での忙しさ、そういうものを多忙とするかによって対処の仕方が違ってくると思う。
- ・そういう意味では、いろいろ手を打ってきているので、効果はこの後、順次出てくると思うが、そういう観点を持ってやっていったらいいと思う。

(山崎委員)

- ・私からは教員の確保対策についてであるが、優秀な教員の人材を確保することを目的として、昨年12月下旬から東京、京都、名古屋の3会場で開催された教員UIJターンセミナーは大変好評だったと聞いている。
- ・また、本県における教員としての就職を促すため、開催された教員養成講座、TOYAMAていちゃーず'カレッジも定員を上回る受講者が集まり、大変好評だったと聞いている。
- ・それぞれの事業について、9月補正において予算化していただいたことに感謝申し上げたいと思う。また、これらの取組みは、学校現場への不安を払拭させると同時に、教員の仕事の魅力ややりがいを伝えるためにも大事だと考えているので、来年度以降においても引き続き実施できるようご支援願いたいと思う。

(鳥海委員)

- ・私からも教員の確保策のことについてお話しさせていただきたいと思う。
- ・大学生が本県で教員を目指す動機づけになるように、教育委員会と富山大学とが連携してさまざまな取組みに着手しているところである。具体的には、県外出身の富山大

学生が県内の公立学校で教育実習を行うようにすること、また富山大学の教員免許取得希望者に対するセミナーにおいて、若手教員にご参加いただいて富山県教育の魅力を発信していただくなど、教員の魅力の発信と教員確保対策に連携して取り組んでいるところである。

- ・さらには、大学生が小学校において学びのアシストをしたり、英語学習パートナーなどの学習支援活動に参加したりするということは、教員への動機づけとしても大変効果的であると考えている。引き続きご支援をよろしくお願いしたいと思う。

#### (伍嶋教育長)

- ・今ほど各教育委員の皆さんから発言されたこと、これはいずれも重要なことだと思っているので、ぜひご支援をお願いしたいと考えている。
- ・特に教育委員会では、先ほど知事からもお話があったが、とやま学校多忙化解消推進委員会において、教員の具体的な業務の改善方策について検討させていただいている。今後、より具体的にいろいろな取り組みを検討しながら、効果のある働き方改革を進めていきたいと思っている。
- ・昨今、教員を目指す方は、働く環境の場を非常に気にされているので、人材確保の意味でも積極的に進める必要があると思っているし、また教育委員会の責務として、教員はこんなに大変であるがやりがいがあるとか、そういったことをしっかりとPRしていくことが大切であると思っている。
- ・また、山崎委員がおっしゃったU I J ターンセミナー、ていーちやーず’ カレッジ、こういった確保策についても積極的に行うことによって、県内出身者に限らず、県外からも優れた教員の確保を図ってまいりたいと思うので、ぜひともご支援のほどお願いしたいと思う。

#### (石井知事)

- ・今ほどの皆様からご発言いただいたが、まず村上委員からスクール・サポート・スタッフ、部活動指導員の拡充についてのご要望があった。スクール・サポート・スタッフと部活動指導員については、昨年度の第3回目の会議で配置効果があるというご報告があり、今年度拡充したのであるが、実際にもやはり効果があるということで、今のご要望も踏まえて引き続き拡充に向けて努力をしたいと思う。
- ・また、スクールロイヤーについても、学校現場でいじめ、虐待のほか、家庭や保護者への対応、モンスターペアレントという議論もあるし、児童生徒にかかわる諸課題に関して、法律の専門家への相談を必要とする機会が増える傾向にある。また、そうしたことにその都度対応すると、教員にとって、物理的、精神的な負担も大きいということもあると思うので、こうした案件については専門家にお願いするのが効果的ではないかと思うので、今後その方向で検討したいと思う。
- ・藤重委員から、留守番電話の導入についてご要望があった。県内の市町村教育委員会でも導入の例があり、また、全国的にも教員の多忙化解消のために効果があるとされているので、この方向で検討してまいりたいと思う。
- ・町野委員から、教員の時間外勤務についてのお話があった。教員や管理職の意識改革

も必要だと思うが、まずは保護者や地域の方々に教員の方の勤務実態も知ってもらって、保護者や地域の方々のご理解、ご協力をいただきながら働き方改革を進めることが大事だと思う。

- ・特に、最近の学生は就職先の労働環境を重視する傾向があって、非常に多忙だということになると優秀な教員の確保にもなかなか差し障りがあるので、働き方改革をしっかり進めていきたいと思う。
- ・山崎委員から、教員U I J ターンセミナー、教員養成講座についてのご要望があった。教員をぜひやりたいといった高い志や情熱を持っている方も相当数いらっしゃるんじゃないかと思うので、そういう方が学校現場で働くことに、多忙化その他でどうしようかと不安を感じる人が少なくないとも伺う。そこで、志、情熱を持った優秀な方々に教員を目指してもらうには、そういった不安の払拭とか、具体的に教員のやりがいとか魅力を伝えることが大事であると思う。こうした点について、しっかり対応していきたいと思う。
- ・鳥海委員から、教育委員会と富山大学との連携、大学生の学習活動支援への参加というお話があった。優秀な教員確保という点で、今後とも富山大学との連携をさらに深めることが大切だと思う。
- ・また、大学生の皆さんが学校現場で学習支援活動に参加するということは、学生がそこで実感を持って、教員を目指そうという動機付けにもなると思うし、学生が手伝うことで教員の負担軽減にもなる、また子どもたちへの教育効果も期待できるということであるから、できるだけこうしたことをさらに充実していくように取り組みたいと思う。
- ・教育長から、とやま学校多忙化解消推進委員会において取組みの効果を検証しながら、より効果的な取組みを協議、実行しながら働き方改革を進めるというお話があった。今後、さらに働き方改革を進めるには、教員の皆さんの意識改革、外部人材の活用はもちろんであるが、さらに効果的な取組みも必要になるのではないかと。優秀な教員の確保という観点からも働き方改革を進めることが大切であるから、各委員の皆さんからいただいたご意見、ご要望を今後の予算編成の際に十分考慮させていただこうと思う。

## (2) 教育の更なる充実について

(石井知事)

- ・それでは、続いて、協議事項(2)について、事務局から説明をお願いします。

広沢参事・教育企画課長より、資料2に基づき、「教育の更なる充実について」説明した。

(石井知事)

- ・それでは、事務局の説明に対する意見とか、また先ほど申し上げたように、来年度予算が今大詰めになっているが、特にご要望があればお伺いしたいと思う。

(町野委員)

- ・今なお進んでしまっているかもしれないが、人生100年時代が到来すると言われている。職業人生が長期化して、社会や経済がさらに大きく変化することが予想される。
- ・こういった変化に対応するために、自分の将来を見通して自分の人生を主体的に切り拓いていく力を伸ばす必要があるので、キャリア教育が大変重要になってくると思う。
- ・富山県は「14歳の挑戦」を全国に先駆けてスタートして、これが今どんどん全国に広がりつつあるが、今度はその1つ上の高校生に対してキャリア教育を充実するということになる。新たに社会へ羽ばたく「17歳の挑戦」というものを作って、大学での実習や県内企業の見学や体験を含めて充実が図られていると思う。生徒アンケート結果を見ても、行ってよかったというアンケートの結果が多いと思う。
- ・今後は各学校の段階を通して、体系的、系統的にキャリア教育を充実していく必要があると思うので、ぜひご支援をお願いしたいと思う。

(鳥海委員)

- ・グローバル化が進む中で、ふるさとをよりどころとしてグローバル社会で活躍する人材を育成するということは大変重要なことである。ふるさと教育関連事業としては、はつらつ公民館学び支援事業が挙げられているが、地域のきずなづくりや地域への愛着の醸成という点で大変有効な取り組みだと思う。
- ・グローバル人材の育成については、今年4月から始まる小学校5、6年生における英語の教科化について、しっかりした対応が望まれると思う。本県では、全国に先駆けて英語専科教員を配置するなど、英語教育に熱心に取り組んでいるが、子どもたちが英語を楽しく学習しながらコミュニケーション能力を着実に伸ばし、ふるさとに誇りと愛着を持ったグローバル人材となれるよう、引き続きご支援をよろしくお願いする。

(山崎委員)

- ・とやま科学オリンピックについてであるが、これまで9回開かれたこの大会については、富山県にまつわる問題に取り組むことによって、科学に対する関心であるとか、あるいは論理的な思考力などを身につけることができるようになる大変有意義な大会だと思っている。
- ・ただ、科学オリンピックの問題を作成する人、作問委員については、学校現場で働く教員であり、大変長い時間をかけて問題作成に取り組んでおり、その負担については大きいものと聞いている。この点については、資料にもあるとおり、外部の人材を活用するなどして負担の軽減を図ることが必要だと思っている。
- ・また、小学校部門の参加者がここ数年、減少傾向にあるということであったが、来年度は記念すべき第10回大会となることでもあり、これを機に内容を一層充実させて、より多くの児童生徒が参加する魅力ある大会になればよいと思う。これまで回を重ねてきたこの大会が一層充実したものになるよう、ご支援をお願いしたいと思う。

(村上委員)

- ・私からは幼児教育のことであるが、今年度新たに幼児教育センターが設置され、幼児教育施設での訪問研修を実施するなど幼児教育の質の向上が図られており、それを評価したいと思う。県内の幼児教育施設の数が多いので、1年間に幼児教育スーパーバイザーであるとか、アドバイザーの方が訪問できる施設数が非常に限られるので、早急に市町村の推進リーダーを育成していただく必要があるのではないかと考えている。
- ・また、幼児教育と小学校教育の接続についても、さらに連携を深めることが必要だと思う。昨年度は参考資料7にもあるように、幼児教育・小学校教育合同フォーラムが開催されたそうであるが、幼児教育と小学校教育の円滑な接続のためには、こういった合同研修会等を継続して実施していくといった取り組みが必要と考える。
- ・本県の幼児教育がさらに一層充実したものとなるように、ご支援をお願いしたいと思う。

(藤重委員)

- ・新たな時代に求められる能力として、情報や情報技術を活用していく力を育成していくことは大変重要であり、そのためには環境整備が不可欠である。県立学校については、来年度に全ての学校でタブレット端末や無線LANの整備が完了するが、小中学校については、市町村によって整備状況に差が出てきていると聞いている。
- ・国ではGIGAスクール構想というのが打ち出されており、義務教育段階での児童生徒1人1台端末の整備を目指すこととされたところであるので、来年度から小学校で全面実施となる新学習指導要領で小学校にもプログラミング教育が導入されることもあるし、早急な整備が求められる。ICTを使いこなして自らが課題を見つけ、解決していく能力を身につけていくためには、ICT教育のさらなる充実が必要であると思う。
- ・県立高校、特別支援学校においても1人1台の端末が整備されるよう、ご支援をお願いしたいと思うし、また、ハード面だけでなく、教育を行える人材や教材など、ソフト面でのご支援もお願いできればと思っている。

(伍嶋教育長)

- ・私からは、県立高校の再編統合により新たに設置される新高校の施設設備についての拡充について、お願いをしたいと思っている。
- ・教育委員会では、平成30年12月の総合教育会議において定められた県立高校の再編の実施計画に基づいて、現在、今年4月からの開校を目指して新入生を受け入れるべく、鋭意準備を進めている。新高校における施設設備についてもぜひ魅力のあるものになるよう、必要な施設設備の整備について、ぜひご支援をお願いしたいと思う。
- ・あわせて、今後閉校になる学校もあるが、残っている生徒がしっかりと学習できるような措置もお願いしたいと思っている。

(石井知事)

- ・最初に、まず町野委員がおっしゃったように、人生100年時代ということであるから、キャリア教育の充実は大変重要だと思う。
- ・お話に出たように、「14歳の挑戦」に加えて、今年度から社会に羽ばたく「17歳の挑戦」ということで、高校2年生を中心に県内大学での研究活動体験を含むインターンシップを実施している。また、富山の企業魅力体験バスツアーというのも県立高校の全ての普通系学科で順次実施していくということである。
- ・富山県には、先端技術等の面で全国や世界に誇れるオンリーワンの企業とか、なかなかいい企業がたくさんあるので、大企業あるいは中小企業を問わず、ぜひ多くの高校生に訪問してもらい、そういう機会を充実させていきたいと思う。
- ・鳥海委員が指摘されたように、ふるさとに心の根っこを置きながら国の内外で活躍する、そういう人材育成は大事だと思う。これまでもふるさと教育については相当力を入れてきたつもりであり、公民館では親子の自然体験活動、世代間交流が積極的に行われているし、子どもたちがふるさとを知り、またふるさとに愛着を持つ、そういう面で効果が上がっているのかと思う。
- ・中学校で「ふるさととやまの人物ものがたり」、高校でも「高校生のためのふるさと富山」という副読本が配付されており、私も時々見るが、私が見ても改めて、ああ、そうだったなと勉強できる点があるわけで、こういうものを子どものころから勉強してもらおうというのは大変いいことではないかと思う。
- ・グローバル人材の育成については、英語専科教員を全国に先駆けて断然トップで整備してきており、今年度は60校から65校にさらに拡充しているということで、今後もしっかり取り組んでいく。
- ・山崎委員のお話のとやま科学オリンピックは、来年度は10回目となり節目の年である。これは、明日のとやま教育創造懇話会の提言を平成21年にいただいてから進めてきているわけであるが、子どもたちの科学的な才能を引き出したり、それを伸ばしたりするという点で、相当程度効果があるという気がする。昨年度は久しぶりに高校部門の様子も拝見したが、実際、生徒たちが大変生き生きとした姿勢で、特に2人1組で実験なんかもなさっているわけであるが、非常に意欲的に取り組んでもらっている。それから、事後のアンケートでも、難しかったがおもしろかった、また参加したいという意見がたくさんあるので、富山の子どもたちは大変頼もしいと思っている。この問題をつくるのに先生方に大変苦勞をいただいているわけで、毎年いい問題をつくっていただくというのは子どもたちのためにもいいし、つくる先生の研修にも役立っている面もあるとは思いますが、多忙化解消ということもあるから、負担軽減のために何らかのサポートができないか、これはまたよく検討してまいりたいと思う。
- ・村上委員がおっしゃった幼児教育センター、これは私も一度、現場でアドバイスをされている姿を拝見したが、大変熱心に取り組んでいただいて、やはりこういうものができてよかったと思う。これをさらに普及させていくには、スーパーバイザーとかアドバイザーが自ら訪問できる施設数がどうしても限られているから、市町村でそういう推進リーダー的なものを設けるとか、いろいろ検討すべき点があろうかと思うので、しっかりと検討していく。
- ・藤重委員からお話があったICT教育も大変重要なことである。平成28年に県立学校



2校をICT教育モデル校に指定して、効果的な活用方策について検証を行い、その結果を踏まえて、これまで実施校を42校に拡大して、また高校にタブレット端末を1,522台配置するというをやってきている。今後、さらに第4次産業革命が進展するとか、5G時代が本格的にやってくるといったこともあるから、今後とも学校現場のニーズもしっかり把握しながら、計画的なICT環境の整備に取り組んでいく。

- ・また、教育長から高校再編の場合の新高校の施設設備の整備についてのご要望をいただいた。前期再編のときにも、例えば工業教育であると、富山工業高校と高岡工芸高校をものづくり中核校として開校して施設設備の充実を図って、かなり大きな成果が出たのではないかと思う。今回の再編についても、新しくできる高校を魅力ある学校にしていくということが大切であるから、この点についてはしっかりと配慮して、予算の面でも反映させていきたいと思っている。
- ・現在、予算の大詰め新时期であるから、今日は委員の皆様から、ある意味では大変タイムリーにいろいろご意見をいただいたので、できるだけご指摘を踏まえて、しっかりと検討していきたいと思っている。

### (3) 閉会

(石井知事)

- ・それでは、以上をもって今日の会議は終了とする。